

オリーブの会通信

2024年4月

発行：KHJ 香川県オリーブの会

〒760-0043 高松市今新町4番地20

連絡先 TEL 087-802-2568

<http://khj-olve.com/>



新年度のはじめ4月を迎えましたが皆様お花見はもう済まされたでしょうか。

3月末に高知県で一足早く土佐の桜を満喫することができました。近年では異例の人気を博したNHK連続テレビ番組「らんまん」の余韻がまだ冷めないのか、高知市五台山にある牧野植物園はじめ人気スポットには多数の県外客と思われる方々が見られました。

今年の通常総会は、6月30日(日)*「かがわ総合リハビリテーションセンター」を会場に実際に集まって開催します。(会員の皆様には、2024年度通常総会ご案内・出欠はがきを同封しています。) *日程調整の結果5月26日に「クロストーク」を開催となり例年よりも1か月遅らせました。

- 会員の多くが高齢期に入り役員の人選や運営方法も変更すべき時期に当面する中、一人でも多くの会員にお集まりいただき、単に報告・計画の審議だけでなく、会の今後について胸襟を開いて協議する必要が生じています。是非、総会にご出席下さるようお願いいたします。

●月例会の報告

2月

講師として高松市健康づくり推進課(高松市保健センター)において、対ひきこもり業務に従事されている 保健師 酒井まどか氏をお招きし講演をしていただきました。

演題 「高松市 ひきこもり支援の取り組みについて」

以下は、終了後の参加者のご感想の一部です。

- ・保健師として、熱心に取り組んでいただいていることが伝わってきたし、精神保健の業務の細かなところもよく理解できた。
- ・良い機関ができて、その機関を利用できにくいのがひきこもり当事者・家族の実態だけでもどかしい。
- ・お話を聴きながら医療機関に通院できなくても、社会(機関)とつながることができれば活路が開けると感じた。
- ・行政機関のひきこもり支援が質・量ともに充実してきたことを感じた。

3月

第一部 ・当事者経験者の出演映画の上映をしました。

題名 「ドキュメンタリー ひきこもりという履歴」

〈内容〉 生きづらさから動けなくなったとき、心の雨がやむまで軒先に入り、雨がやんだらスッと出て行けたなら…。主人公はその頃の状態を振り返り「立ち止まり」と語る。職場でのトラウマが引き金となり、27歳から約20年間ひきこもっていたタツオ。当時の職場を再訪した胸に去来するものは…。一方、12歳から約4年間、27歳から約13年間ひきこもり状態だったタエ（がっちゃん）。

夜間中学へ行くことを決意した20歳の頃の思い出の場所を辿る。ふたりは自立を目的とする就労支援施設で出会い結婚。支え合いながら広島に暮らしている。自立を望み働きたいと願ったとき「履歴書」では、悩み苦しみ生きることを諦めなかった年月が「空白」となる。

空白部分をひきこもり当事者が語るドキュメンタリー。



第二部 当事者会「ポパイの会」メンバーによる活動報告

「オリーブの会」には「ポパイの会」という当時者会があります。高松市からの委託事業やイベント、居場所活動を行っています。特にこの1年、それらの活動に加え、他のKHJ支部や他のひきこもり関連団体が開催するシンポジウムなどに、発言者として招かれるようになりました。また興味のある集会にメンバーを誘って参加し他のKHJ支部のメンバーとの交流を楽しみました。それらの記録をメンバーが編集した写真とビデオを上映し、説明を加えました。

一月例会参加者の声一

(映画視聴より)

○ひきこもった原因がハッキリしないというところが印象的だった。 ○生活はどうしていたのか？ ○動き始める過程をもっと詳しく知りたかった。 ○ひきこもりを「意味ある立ち止まり」と思いたいという言葉が印象的だった。 ○ひきこもりを「意味ある立ち止まり」と捉えることができる当事者でありたいと…。 ○履歴書のブランク等、社会にひきこもりをもっと正しく理解してもらえるには、親として何ができるか再認識しました。 ○ひきこもりを社会がマイナスイメージをもって捉えられている。 ○社会が立ち止まっている人を暖かく受け入れることが、誰にとっても良い社会になると思った。 ○これから先は親戚より深い付き合いができる他人と関わりを持ち、何かあればお互い助け合えることを目標にしているとのこと、ひきこもり当事者に限らないと思います。

(ポパイの会メンバーの話より)

○この1年、他の当時者会や家族会などとのネットワークが広がり、楽しみながら活動している様子に当事者の皆さんの確かな成長を感じました。今後、家族会活動の参考になるようなアイデアがあればよろしくお願いします。

第 258 回月例会ご案内



日 時	2024 年 4 月 28 (日) 13:30~16:30 (受付: 13:00~)
場 所	かがわ総合リハビリテーションセンター 「福祉センター」 2階 第1・第2研修室 〒761-8057 高松市田村町 1114 番地 Tel: 087-867-7686
内 容	<p>☆第一部 13:30~ 会からの諸報告 13:40~ 15:30 井戸端双方向 演題「障害年金 情報交換会」 講師 社会保険労務士 横山法子 氏 (横山法子社会保険労務士事務所。Openn Dialogue ねんきんカフェ店主)</p> <p>* 講演終了後ご質問の時間を予定しています。</p> <p>☆第二部 (第一部終了後 10分程度休憩 の後) 15:40~ 16:10 グループ別話し合い (ここでの話は誰もが他の者に漏らさないこととします。)</p>

・会の発足以来 20 年余の時代を経て、家族会の課題は時代とともに変化し今後もとどまることはないと考えられます。「親亡き後、当事者はどうやって生きていくか、いけるか？」は今の時代に生きる私たちが当面する最大の課題のひとつと思われます。

経済的基盤における社会福祉制度、中でも社会保険制度（「障害者基礎年金の受給」制度もその一つ）について、ひきこもり当事者（家族）がどう考え、どう対処すべきかを専門的視点から分かりやすくお話しいただけることを期待しています。

第 259 回月例会ご案内

日 時	2023 年 5 月 26 (日) 13:30~16:30 (受付: 13:00~)
場 所	瓦町 FLAG 8階 多目的スタジオ 高松市常磐町 1 丁目 3-1 (ことでん「瓦町」駅ビル上階)

内 容	「ひきこもり親子クロストーク」 in 高松 当会が主催し行う本行事をもって当会の月例会と位置づけします。 全国で22回目の開催にして、四国初のこの開催行事に会員の皆様、 是非誘い合って、奮ってご参加ください。
参加費	無 料

・詳細は、別紙「クロストーク」案内チラシをご覧ください。

KHJ 香川県オリーブの会 女子会&家族会 in 三豊

開催(月例)日時 : 4月12日(金)、5月10日(金) 時間 13:30 ~ 15:30
 場所: 三豊市たかせ人權福祉センター (高瀬町) 場所の案内のみ (0875) 72-2501
 〒767-0011 三豊市高瀬町下勝間 430-1
 (三豊市役所庁舎とは国道11号線を挟んで反対方向にあります。)

報 告

【諸会等の予定】

(相談窓口・当事者のための居場所)



内 容	月	日	曜	時 間	担 当
ひきこもり相談窓口 (来所相談も可) ※先ずは ☎ 087-802-2567 をお待ちしております - 第1・3土曜日に行います -	4	7 21	土	10:00~13:00	平野ほか
	5	5 19	土	10:00~13:00	平野ほか
ひきこもり当事者のための居場所 ※連絡先: ☎ 087-802-2567 - 第1・3土曜日に行います -	4	7 21	土	13:30~16:30	サポーター登録者・平野
	5	5 19	土	13:30~16:30	サポーター登録者・平野

●初めて参加される方は、(☎ 087-802-2568) オリーブの会までお電話ください。

(注意) 2024年4月以降、ひきこもり相談窓口、ひきこもり当事者のための居場所

ともに第1・第3土曜日、時間帯が一部変更となりましたのでご注意ください。

(従来の「傾聴サロン」の名称は「ひきこもり当事者のための居場所」に変更となりました。)

(運営委員会等)

内 容	月	日	曜	時 間	摘 要
第1回運営委員会	4	20	土	13:30~16:30	

第 2 回運営委員会	5	18	土	13:30~16:30	
第 3 回運営委員会	6	15	土	13:30~16:30	総会：6/30
第 4 回運営委員会	7	20	土	13:30~16:30	
第 5 回運営委員会	8	17	土	13:30~16:30	

*ポパイの会（居場所活動）予定は、同封の「活動ご案内」をご活用ください。

- ・年度が変わりました。皆様の会費の納入時期が早くなり、繰り返してご請求が必要な方はほぼいません。今年度も、年度初めの早期支払いのご協力をお願いします。

年会費納入のお願い

年会費の納入についてのお願い ****送金の仕方の説明は切り取りして保存をお願いします。**

◎下記の方法で新年度（2024年度）の会費 5,000 円のお支払いをお願いします。

（できれば「ご寄付」も合せてお願いします。）

○ 年会費・寄付金の送金方法 と 振込先口座等

送金方法

- ・ゆうちょ銀行（郵便局）窓口に備付の「電信払込請求書・電信振替請求書」により下記の口座に送金する方法 ① か、他の銀行からの送金方法 ② いずれか

【送金（振込）先の口座番号】

【方法①、②により振込先口座番号が異なります】

- ① ゆうちょ銀行で現金またはご自分のゆうちょ銀行口座から振込する場合
記号 16300 番号 18531751
ケイエチジェイカガワケンオリーブノカイ : ①、②とも同じ
- ② 他の金融機関より送金する場合
ゆうちょ銀行 店名六三八（ろくさんはち）
【店番】 6 3 8 【預金種目】 普通預金 【口座番号】 1853175

—特別寄稿文—

東日本大震災被災の記念日に当たる去る3月11日、災害時にも「避難できない～ひきこもりの葛藤～」と題する番組がNHK ハートネット TV(Eテレ)で放送されました。

番組を視聴された、ひきこもりについて強い関心とご理解のある方から番組の大まかな内容についてまとめられたものをいただきましたので掲載します。

（番組の内容）

—災害時に—

避難できない ～ひきこもりの葛藤～

13年前の東日本大震災で、1人のひきこもりの男性が亡くなりました。自ら避難を拒んだ末のことでした。人に会うのが怖かったとされています。

高台に避難
してください



こうしたひきこもりの人たちが災害時の避難で直面する困難はあまり知られず、公的な支援の対象にも想定されていないのが実情です。

全国から寄せられた声、さらに、能登半島地震で被災したひきこもり経験者や支援者が抱える葛藤や課題から、命を守るために何ができるのかを考察。

………（番組を視聴して）………

「長いひきこもりの末、避難を拒んだのです。」衝撃的なナレーションからの始まりでした。

引きこもりと天災、長く見過ごされてきました。「避難しないで、死んでもいい、人間関係の方が怖い」から「避難」できないと。

長男の陽一さん:「弟の仁也は逃げることを頑なに拒み、死を選んだ」と言います。

「津波や地震よりも人間関係の方が怖い」…50代ひきこもり当事者

「非難しないのではなく、避難できないのです」…40代当事者

池上さん:「避難できない状況が社会の間にある。命と尊厳のはざまについて議論が未だなされていない」と…

佐々木さん(陽一さん、仁也さん兄弟の父親)・陽一さん:中2の時の転校がきっかけで始まった仁也のひきこもり生活は13年になっていた。

泣く泣く転校した。まじめで時間通りピッチリ動き、生活リズムがちゃんとしていた。将来について話し、何か自分でやろうとしていた。

そんな矢先に大地震(東日本大震災)が発生し、陽一さんは必死に逃げるよう説得したが、弟仁也さんは「逃げない」と拒んだ。母親のきみこさんも逃げる途中、17mの大波に飲み込まれた。佐々木さんは「どうすれば避難を拒む仁也さんを助けることができたのか」、今も問い続けている。「嫌だいやだと」拒む仁也さんを大人が避難させたとしても、その後が大変だしちょっと違うのではないかと…

— では、拒んだ時にどうすれば命を守ることができるのだろうか—

国は、災害対策基本法(S.36年法律第223号)を見直し、支援対策の強化を図ったが、しかし、引きこもりの人たちはその対象から抜け落ちていた。

池上さん:「避難できた人、出来なかった人の違いは何かと考えていくことが次につながる」と
—当事者と支援者—

西尾さん:(20年近く引きこもり、石川県珠洲市) 避難所に行けず、「車中泊でした。どうしても拒む部分が強くなる」と…

—ではどんな支援が必要か—

本間さん:いくら避難先が確保されていても、本人の気持ちを動かすものがなければ難しい

と思う。いま能登の人たちは、どんなつながりが必要かと思って、珠洲カフェを開いている。情報を届けることが大事と…

池上さん: 家族支援を届けることがとても大事と思っている。

佐々木さん: 当事者も苦しいし、家族もまた同じ。同じ境遇を共感し安心して話せる場として家族会は大事です。当事者と対応している家族が気持ちに余裕をもって対応できるので、いい方向に変化が現れてくる。と……



—では、避難後安心して過ごせるようにするにはどうすればいいか—
当事者からは、

- (1) 別室を用意する。
- (2) 部屋の中の壁際や角などに割り当てれば当事者の負担が軽くなる。
- (3) ソロテントなどパーソナルスペースやぬいぐるみなど安心アイテムを置く。
- (4) その他

— 今、当事者に伝えること—

本間さん: 自分の信頼できる仲間が在ったらいいので、是非、勇気をもって頼って欲しい。

佐々木さん: 私も普段から息子に対し「大事だよ」と思っていることを口に出して伝えていなかった。あなたがどういう状態であっても、生きて欲しいという思いを本人に分かってもらえば、逃げられるようになるのではないかと思っている。「命」の大事さを言葉と行動で表していかなければならない。

—東日本大震災、ひきこもり経験、20歳代男性—

どこかに必ず助けてくれる人がいる。自ら一歩を踏み出すこと。

—大震災経験、20歳代ひきこもり経験男性—

助かることも大事だが、助けられる」ことも大事。当たり前なんてない。人を傷つけるのも、人を癒すのも人。

池上さん能登半島地震被災地石川県へ、ひきこもりの人たち取材

中田明さん: みんな大丈夫かと思うとそれだけでメンタルを病むが、「無事を祈っている」とともに、「助けてくれ」、「もういや」ということを電話で聞く。

池上さん: 「しんどいよ」、「つらいよ」というのを直接、誰かに言えるのは大事なこと。

—珠洲市、加護まりこさん、愛さん親子—

学校の避難所で生活しているが、過ごしやすいような取り組みが行われている。

騒ぐ子、自閉症の子、ひきこもりの子の部屋も作ってくれている。

本間さん: 避難所に行ったら「何とか行けそう」と思つか、「ダメだ」と感じたら「分かってやれる人」になり、「助けられる人」になりたい。

池上さん: 何かあった時に普段から助け合うこと、ひきこもるといことは決して悪いことで

はない。「助ける」、「助けられる」という関係性はとても大事です。と……

佐々木さん:今、ひきこもりの支援活動を始めた。この居場所が完成したら当事者が思い思いに過ごせる場所となり、地道な活動を続け「ひきこもりは自分の生き方の選択の一つだ」という風になればいい。

最愛の息子を亡くしたこの場所が、二度と同じ苦しみを繰り返されないように希望の灯を燈し続ける場所になっています。

・佐々木さん:「KHJいわて石わりの会」代表 佐々木善仁さん

・池上さん(キャスター):「KHJ 全国ひきこもり家族会連合会」副代表池上正樹さん

以上